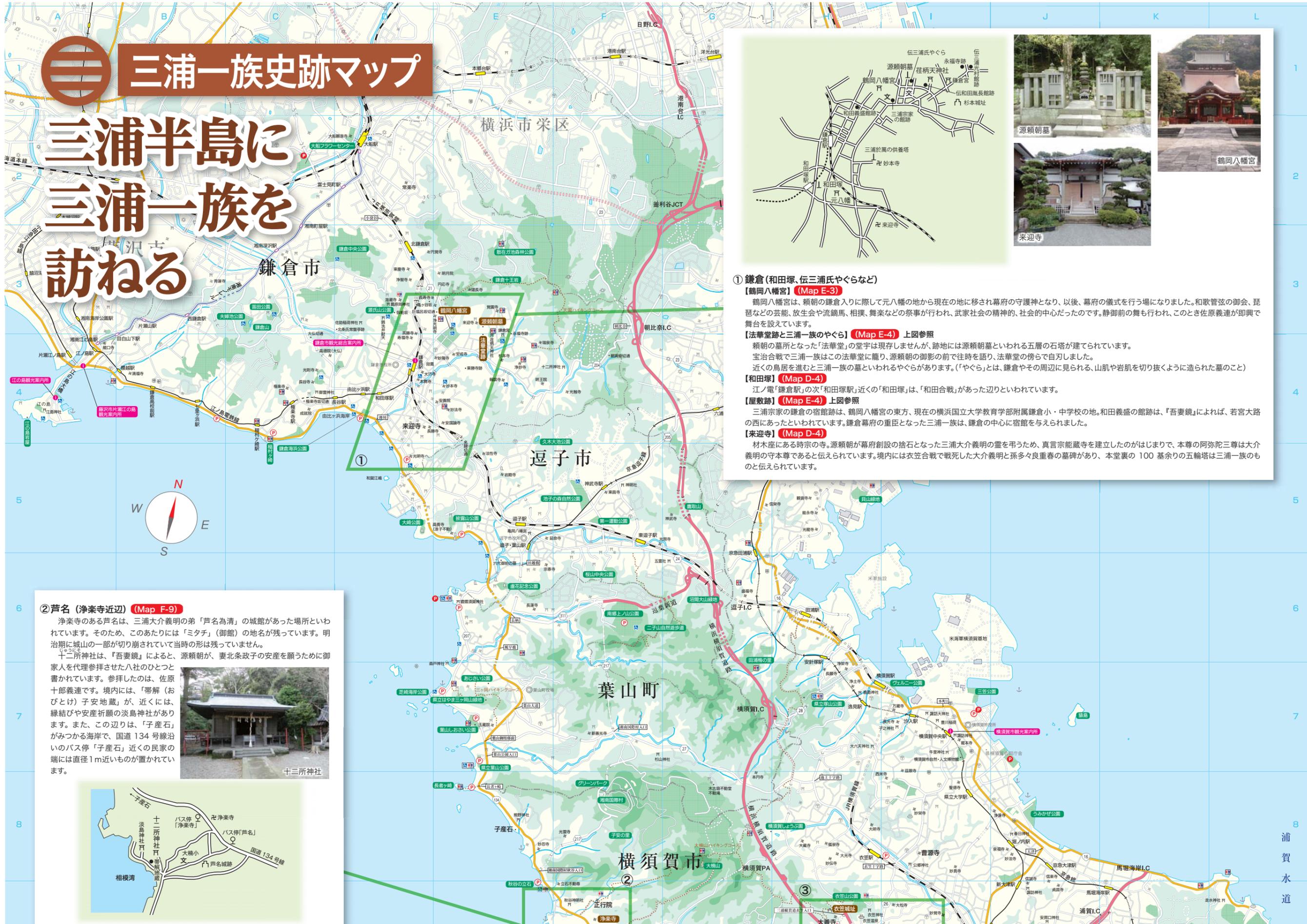


三浦一族史跡マップ

三浦半島に 三浦一族を 訪ねる



① 鎌倉 (和田塚、伝三浦氏やぐらなど)
【鶴岡八幡宮】 (Map E-3)
 鶴岡八幡宮は、頼朝の鎌倉入りに際して元八幡の地から現在の地に移され幕府の守護神となり、以後、幕府の儀式を行う場になりました。和歌管弦の御会、琵琶などの芸能、放生会や流鶉馬、相撲、舞楽などの祭事が行われ、武家社会の精神的、社会的中心だったのです。静御前の舞も行われ、このとき佐原義連が即興で舞台を設けています。
【法華堂跡と三浦一族のやぐら】 (Map E-4) 上図参照
 頼朝の墓所となった「法華堂」の堂宇は現存しませんが、跡地には源頼朝墓といわれる五層の石塔が建てられています。宝治合戦で三浦一族はこの法華堂に籠り、源頼朝の御影の前で往時を語り、法華堂の傍らで自刃しました。近くの鳥居を進むと三浦一族の墓といわれるやぐらがあります。(「やぐら」とは、鎌倉やその周辺に見られる、山肌や岩肌を切り抜くように造られた墓のこと)
【和田塚】 (Map D-4)
 江ノ電「鎌倉駅」の次「和田塚駅」近くの「和田塚」は、「和田合戦」があった辺りといわれています。
【屋敷跡】 (Map E-4) 上図参照
 三浦宗家の鎌倉の宿館跡は、鶴岡八幡宮の東方、現在の横浜国立大学教育学部附属鎌倉小・中学校の地。和田義盛の館跡は、『吾妻鏡』によれば、若宮大路の西にあったといわれています。鎌倉幕府の重臣となった三浦一族は、鎌倉の中心に宿館を与えられました。
【来迎寺】 (Map D-4)
 材木座にある時宗の寺。源頼朝が幕府創設の捨石となった三浦大介義明の霊を弔うため、真言宗能蔵寺を建立したのがはじまりで、本尊の阿弥陀三尊は大介義明の守本尊であると伝えられています。境内には衣笠合戦で戦死した大介義明と孫多々良重春の墓碑があり、本堂裏の100基余りの五輪塔は三浦一族のものとして伝えられています。

② 芦名 (浄楽寺近辺) (Map F-9)

浄楽寺のある芦名は、三浦大介義明の弟「芦名為清」の城館があった場所といわれています。そのため、このあたりには「ミタチ」(御館)の地名が残っています。明治期に城山の一部分が切り崩されていて当時の形は残っていません。
 十二所神社は、『吾妻鏡』によると、源頼朝が、妻北条政子の安産を願うために御家人を代理参拝させた八社のひとつと書かれています。参拝したのは、佐原十郎義連です。境内には、「帯解(おびとけ)子安地藏」が、近くには、縁結びや安産祈願の淡島神社があります。また、この辺りは、「子産石」が見つかる海岸で、国道134号線沿いのバス停「子産石」近くの民家の端には直径1m近いものが置かれています。



1
2
3
4
5
6
7
8
浦
賀
水
道